

放射性物質の取り込みに関する飼育試験

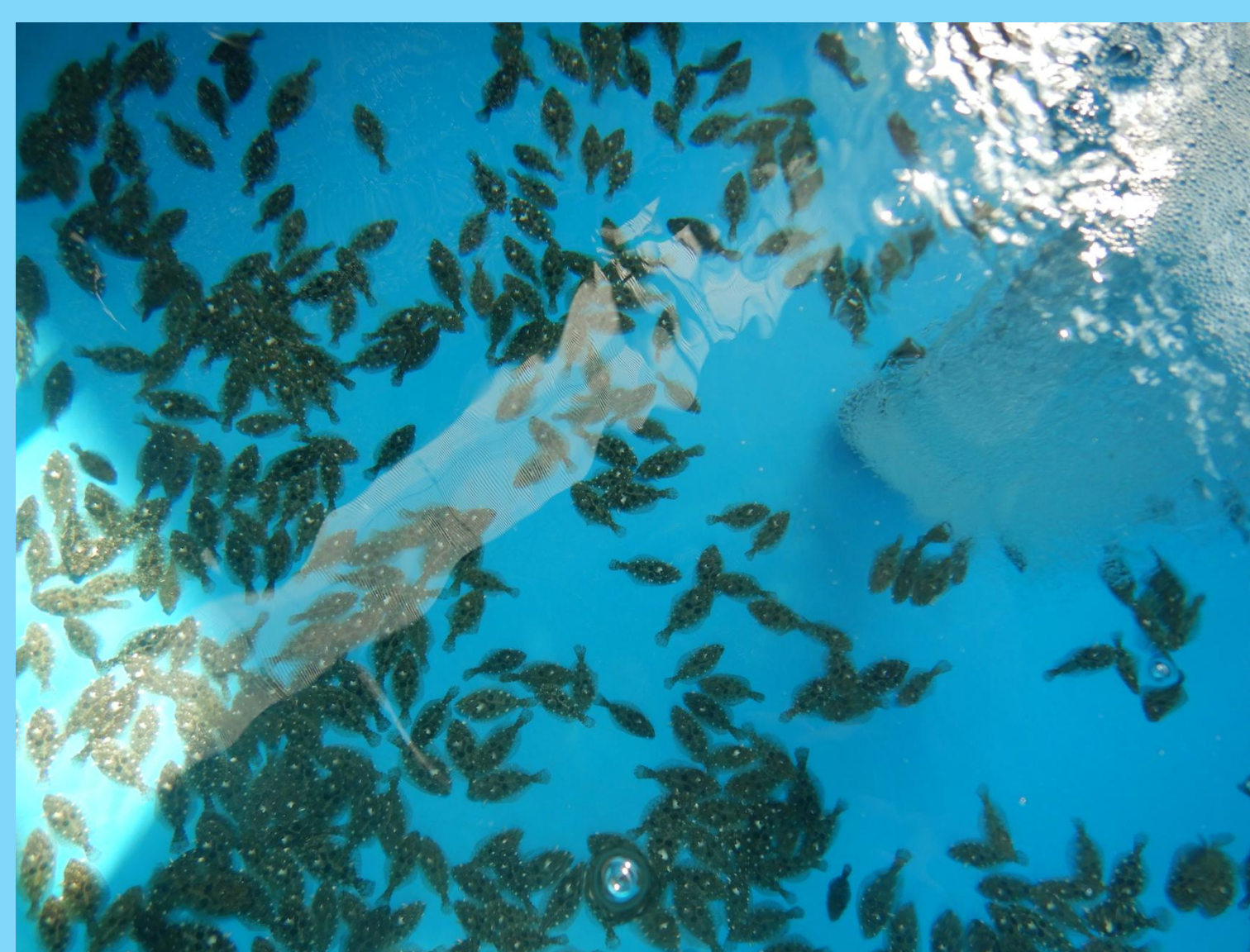
研究目的

- 本県沿岸域における魚介類の放射性セシウム（以下、放射性Cs）濃度は全体的に低下傾向にあるものの、その蓄積メカニズムには未だ不明な点があります。
- 本研究では、飼育試験においてヒラメに放射性Csを含んだ飼料を与えることで、餌から魚への放射性Csの取り込みについて検討し、魚介類の放射性物質蓄積メカニズム解明に関する知見を集積することを目的としています。

飼育試験の概要

【飼育】

- 供試魚（ヒラメ）を水槽で飼育し、放射性Csを含んだ飼料を与える。



^{137}Cs 濃度100Bq/kgに調整した飼料

【測定】

- 一定期間ごとに供試魚を5尾ずつ取り上げ、体重等を測定する。



【分析】

- 取り上げた供試魚の放射性Cs濃度を分析する。
- 定期的に供試魚を取り上げ分析することで、時系列の放射性Cs濃度を把握することができる。



ゲルマニウム半導体検出器

【結果】

- ^{137}Cs 濃度を100Bq/kgに調整した飼料をヒラメに与え続けた結果、6週間後に32Bq/kg、19週間後に48Bq/kg となりました。
- 現在、魚の餌生物の放射性Cs濃度は十分に低下していることから、自然環境下において餌からの取り込みで、魚の放射性Cs濃度が基準値（100Bq/kg）を超過する可能性は低いと考えられます。

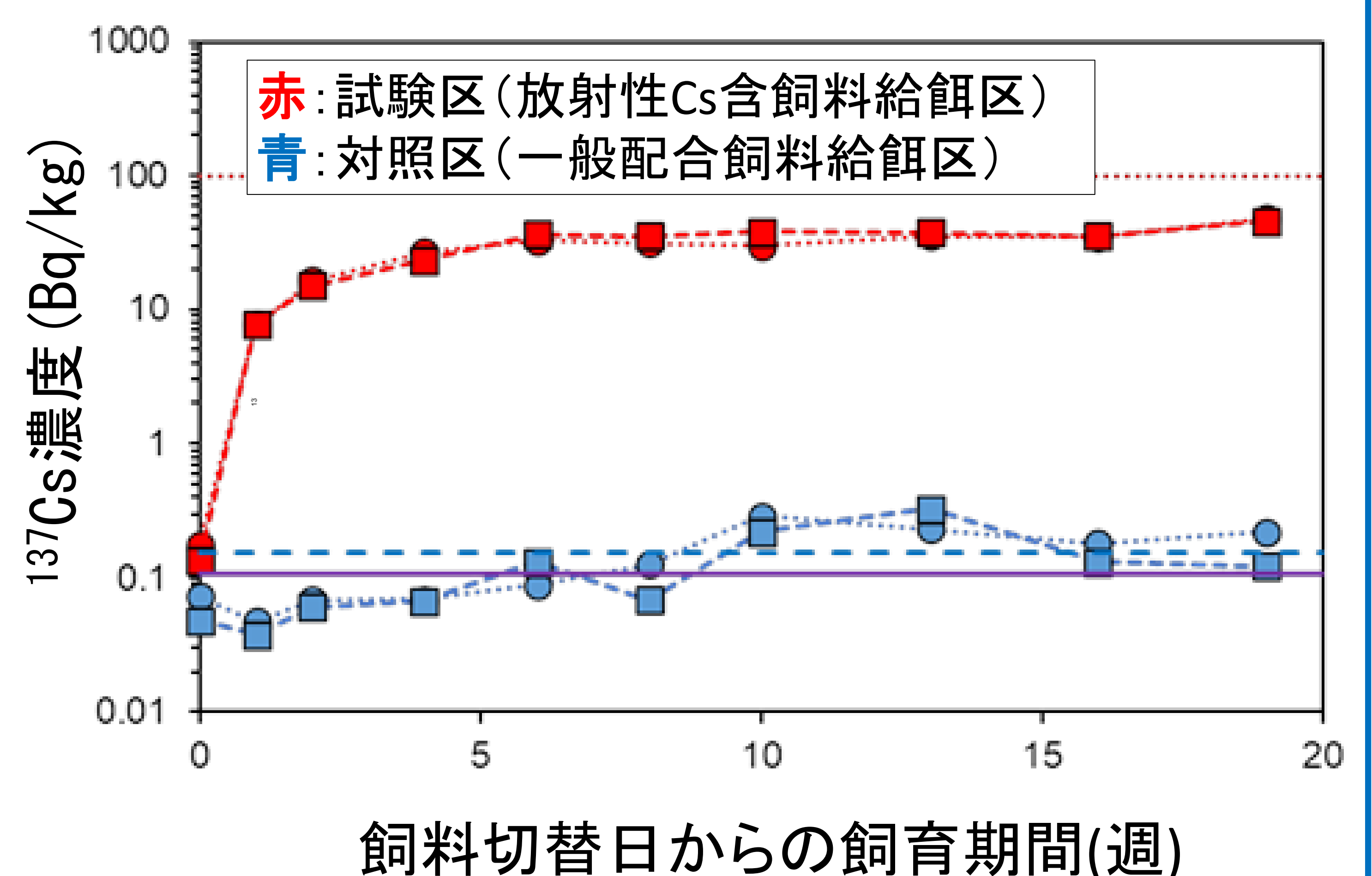


図 飼育期間における各試験区の ^{137}Cs 濃度